

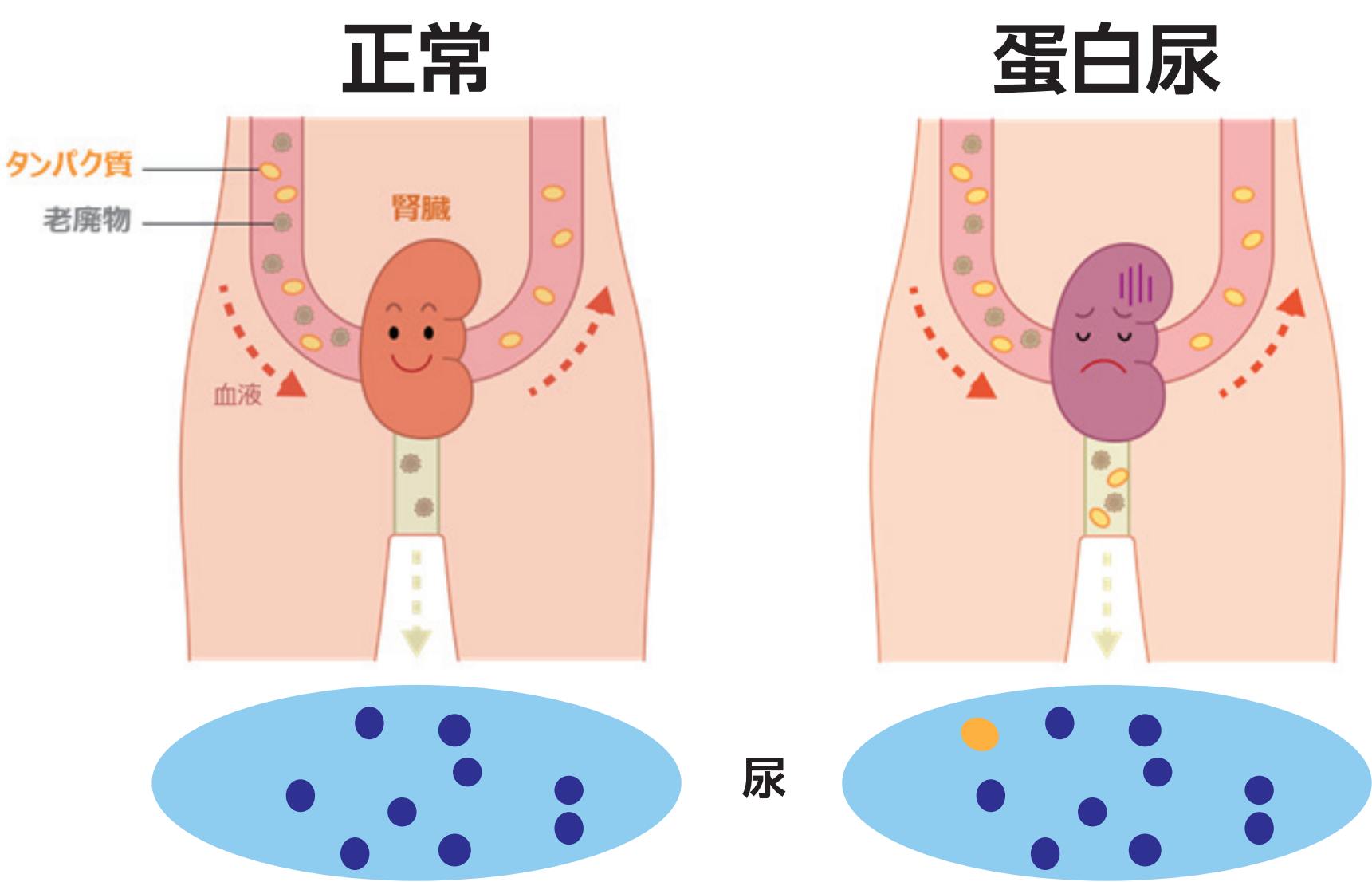
蛋白尿（たんぱくによう）で見つかる希少腎疾患

蛋白尿とは

尿中に基準値以上のタンパク質が排泄されている状態

腎臓は血液から余分な水分や老廃物を糸球体でろ過して尿を作ります。その際、血液中のタンパク質はほとんどもろ過されないで、尿にはほとんどタンパク質が混じりません。

しかし尿がつくられてろ過されるまでの過程の何処かに異常があると、尿に多くのタンパク質が混じり、蛋白尿があらわれる場合があります。



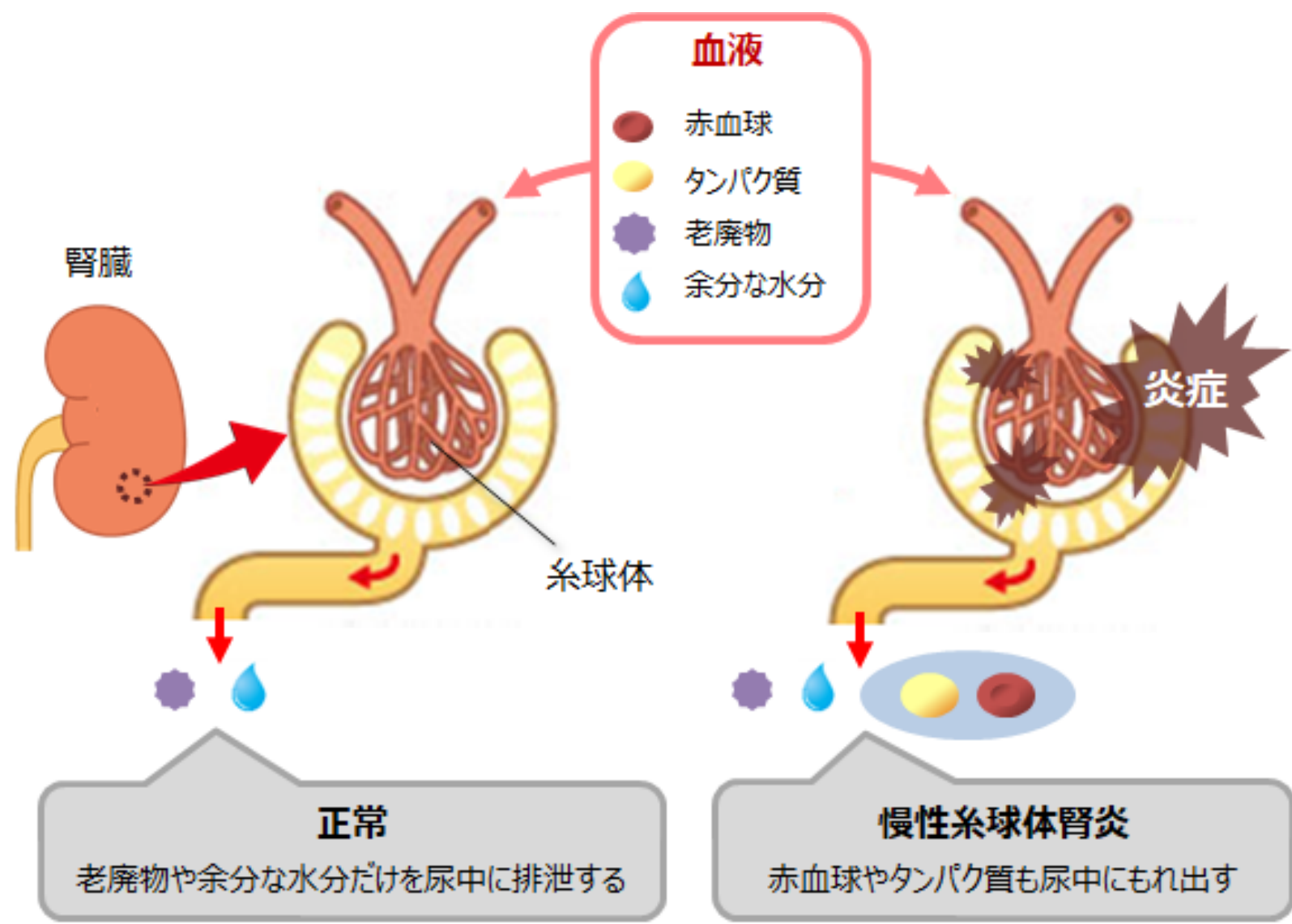
蛋白尿が出る原因

病気が原因である場合			病気以外が原因の場合 (一時的な蛋白尿)
血液中のタンパク質の増加	腎臓の機能の障害	尿路の障害	
- 多発性骨髄腫や白血病などの血液の病気 - 横紋筋融解症（一部の筋肉が壊れる病気） - 溶血性疾患（赤血球の膜が破れる病気） など	- 慢性腎臓病* - ループス腎炎 - アミロイド腎症 - 間質性腎炎 - 中毒性腎障害 - 先天性尿細管疾患 など	- 尿路結石 - 尿路感染症 - 尿路上皮がん など	- 肉などのタンパク質の大量摂取時 - 激しい運動の後 - 体の水分不足時 - 発熱時 - 精神的ストレスがあるとき など

*慢性腎臓病の原因疾患は多様で、慢性糸球体腎炎や糖尿病関連腎臓病、高血圧性腎硬化症 などが知られています。

蛋白尿がでるこんな希少腎疾患があります

蛋白尿があらわれる慢性腎臓病の原因疾患の一つに、腎臓の糸球体が炎症を起こして、血液をうまくろ過できなくなる**慢性糸球体腎炎**があります。慢性糸球体腎炎のなかには、ループス腎炎、IgA腎症、膜性腎症、膜性増殖性糸球体腎炎、C3腎症、巣状分節性糸球体硬化症などの希少腎疾患があります。これらの希少腎疾患には、比較的若い年齢でも発症し、蛋白尿などの尿検査異常はあるが、明らかな症状が少なく、気付かないうちに進行していることがあります。



健康診断で蛋白尿を指摘されたら、医療機関で再検査を受けましょう

詳しくはこちらをご覧ください



家族と考える
慢性腎臓病サイト

腎 援 隊
(じんえんたい)



監修 大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学 教授 猪阪 善隆 先生



RDD2025のすべてのパネルは
左の二次元コードからご覧いただけます。